

令和7年度日本小児外科学会
第6回定例理事会議事録

日 時：令和8年1月20日（火）11：00～17：00

会 場：大阪大学東京オフィス+WEB

出席者：家入里志（理事長）、菱木知郎（副理事長）、内田広夫（会長）、小野 滋（次期会長）、加治 建、曹 英樹、平林 健、木下義晶、尾藤祐子、渡辺稔彦（以上理事）、田中奈々（庶務委員長）、照井慶太（庶務副委員長）、城田千代栄（会長付庶務委員）、山田洋平（財務会計委員長）、上原秀一郎（財務会計副委員長）、柴田晶子（事務局）

出席者（WEB）：

田中秀明（以上理事）、浮山越史、田尻達郎（以上監事）、大植孝治（第41回秋季シンポジウム会長）、淵本康史（第42回秋季シンポジウム会長）、文野誠久（施設認定委員会委員長）、松浦俊治（専門医認定委員会委員長）、石丸哲也（専門制度庶務委員会委員長）

欠 席：石橋広樹（第44回秋季シンポジウム会長）

議事案件：

議 事：

1. 第5回定例理事会の議事録署名人は、田中秀明理事、尾藤祐子理事とした。
2. 令和7年度第4回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 内田会長より名古屋大学小児外科における一連の報道に関して、経緯とその後の経過および現在の状況に関して詳細に説明がなされた。個々の事案に関しては患者プライバシーに関するため議事録に記載しないことを確認した。

その上で6月に予定されている学術集会の扱いに関して意見交換がなされた。田尻監事以下理事の総意として、学術集会は学会本体の事業の一環で、若手小児外科医の学術・研究の研鑽の場であり、国内における小児外科医療の発展に欠かすことのできないものであること、会期まで6ヶ月を切っており中止や変更が不可能であるため、少なくとも学術プログラムは予定通り執り行うことが確認された。ただしSocial Programに関しては、規模の縮小および開催形態の変更が必要であることも確認された。

また、今後の経過によって学術プログラムの開催にも変更の可能性があること、内田会長には必要に応じて説明いただくことも確認された。

4. 審議事項

1) 第63回学術集会について（内田会長）

内田会長より、資料に基づき進捗状況が報告された。一部プログラムを変更し、医療安全と臨床研究倫理のセッションが組まれることも報告された。

会 期：2026年6月11日（木）～6月13日（土）

会 場：名古屋コンベンションホール

主 題：Bright Future for Children

輝く未来へ 小児外科の技術を磨く

同時開催：・WOFAPS regional meeting

・MIS workshop (fee required) (会場：名古屋大学医学部附属病院)

2026年6月9日(火)

2) 第64回学術集会について(小野次期会長)

小野次期会長より、資料に基づき進捗状況が報告された。

会 期：2027年5月27日(木)～29日(土)

2027年5月26日：理事会・評議員会・各種会議

会 場：国立京都国際会館 (<https://www.icckyo.or.jp/>)

会 長：京都府立医科大学小児外科教授 小野 滋

学術集会事務局：京都府立医科大学小児外科(事務局長 文野誠久)

学会運営事務局：日本コンベンションサービス

学会テーマ：Priority はこどものために—小児外科の継承と創造—

3) 第41回秋季シンポジウムについて(大植前秋季シンポジウム会長)

大植秋季シンポジウム会長より、資料に基づき開催結果が報告され、承認された。

- ・参加者は610名であったことが報告された。内訳は医師(会員)546名、医師(非会員)14名、医師以外19名、初期研修医19名、医学部学生12名で、現地参加522名、WEB参加のみ88名であった。

- ・1月20日現在の暫定版収支について報告された。確定した収支報告は次回理事会で報告予定であることが報告された。

日時：令和7年11月1日(土)

会場：千里ライフサイエンスセンター

テーマ：新生児外科疾患の長期フォローにおける問題点

4) 第42回秋季シンポジウムについて(瀧本秋季シンポジウム会長)

瀧本次期秋季シンポジウム会長より、資料に基づき進捗状況が報告され、承認された。

- ・演題募集期間を2026年6月22日(月)～7月21日(火)とすることについて審議が求められ、承認された。

日時：令和8年10月31日(土)

会場：一橋講堂

テーマ：小児外科領域における最新技術の応用

開催形式：会場開催+オンデマンド配信(共催セミナー、ポスターセッション以外)

HP：<http://psjm2026.umin.jp/>

5) 第43回秋季シンポジウムについて(加治次期秋季シンポジウム会長)

加治次期秋季シンポジウム会長より、資料に基づき準備状況が報告された。

- ・10月8日にキックオフミーティングを開催し、会場割りや予算案等について検討した

ことが報告された。

日時：令和 9 年 10 月 23 日（土）

会場：久留米シティプラザ

テーマ：食道閉鎖症の診療最前線 ―さらなるQOLの改善をめざして―

運営事務局：西日本企画サービス

6) 第 44 回秋季シンポジウムについて（石橋次々期秋季シンポジウム会長）

石橋次々期秋季シンポジウム会長欠席のため、家入理事長より会長就任のあいさつが代読された。

6) 各種委員会報告および審議事項

(1) 庶務委員会（田中奈々委員長）

田中委員長より、資料に基づき報告された。

2025 年 12 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,606 名（うち海外 3 名）、評議員 271 名、準会員 19 名、名誉会員 60 名（うち海外 8 名）、特別会員 64 名（うち海外 1 名）、賛助会員 2 団体の合計 2,020 名+2 団体である。

(2) 財務会計委員会（山田委員長）

山田委員長より、資料に基づき報告された。

- ・12 月 23 日に開催された財務会計委員会で、中間決算を確認し、問題はなかったことが報告された。
- ・招聘講師に交通費規定が周知されておらず、グリーン車分の請求があったことが報告され、招聘者の交通費に関する規約を周知することが依頼された。
- ・WOFAPS 参加に関する旅費支給について内規案が提示され、議論がなされ基本方針が承認された。国際委員会との整合性や実費払い等について検討し、一部修正することとなった。

(3) 専門医制度委員会（専門医制度各委員長）

文野施設認定委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・少子化における今後の専門医制度の在り方について、新マッチングシステムに関するアンケート調査案が提示され、第 63 回学術集会の専門制度報告会でアンケートを実施することを告知する予定であることが報告された。
- ・2025 年 10 月 14 日付外科サブスペシャルティ領域連絡協議会の内容をうけて、2026 年 2 月 25 日に外科サブスペ領域連絡協議会と専門医機構との面談する予定であることが報告された。
- ・2025 年 10 月 23 日に開催された集中治療科専門医検討委員会に、文野委員長が外科系委員として参加したことが報告された。
- ・NCD オーディットと異なることを明確にするために、「施設実施調査(サイトビジット)」の定義についての試案が提示され、専門医制度委員会で検討していく予定であることが

報告された。

- ・専門医機構認定のサブスペシャリティの研修細則の文言と一致しない「専門研修医」「専従」「兼任」といった用語の定義や文言の検討状況について報告された。
- ・2026年4月23～25日に札幌で開催される日本外科学会学術集会での専門医制度に関するセッションで、石丸専門医制度庶務委員長が発表予定であることが報告された。
- ・来年度の施設認定委員会について、平日開催の可能性を検討することが提案されたことが報告された。

松浦専門医制度委員会委員長より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・2025年度専門医認定委員会活動予定について報告された。
- ・2025年11月16日（日）に実施された第24回小児外科専門医筆記試験の結果が報告された。
- ・2025年専門医・指導医申請（新規・更新）審査結果が報告された。
- ・2025年10月30日（木）に教育委員会と合同会議を開催し、導入時期は未定だが、機構専門医の更新条件として今後導入する方針となったことが報告された。
- ・2025年12月24日（水）に専門医制度委員会合同委員会を開催し、専門医・指導医認定基準見直しの必要性等について検討したことが報告された。その結果、専門医基準は現行の基準を維持し、指導医基準については手術経験基準を見直す方向で今後具体的な案を作成していくこととなったことが報告された。2027年社員総会での会員への報告を目指して、議論を続けていく予定であることが報告された。

石丸専門医制度庶務委員会委員長より、2025年12月24日（水）に開催された専門医制度委員会合同委員会について報告され、議事録が提示された。

（4）機関誌委員会（田中秀明担当理事）

田中担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・日本小児外科学会雑誌第61巻7号に委員会報告として掲載された2023年新生児外科全国集計結果と原著論文として投稿され掲載された” Current status of neonatal surgery in Japan: An analysis of data from the National Clinical Database Pediatric Surgical Registry “ (Pediatric Surgery International (2025) 41:323 <https://doi.org/10.1007/s00383-025-06217-1>)との関係について委員会審議中であることが報告された。
- ・委員会報告であっても、原著論文の場合は査読を行うことが確認された。
- ・2025年12月23日に開催された日本小児外科学会機関誌・学術先進医療検討委員会合同委員会の議論を受けて、必要と考えられる投稿規定ならびにチェックリストの改定案が提示され、承認された。

（5）国際・広報委員会（家入担当理事）

家入担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・ WOFAPS に提出した 2026 JSPS/AAPS/WOFAPS Joint Congress Pediatric Surgery Week in Nagoya の暫定版スケジュールが提示された。
- ・ 今後の WOFAPS リージョナルミーティング開催予定について報告された。

(6) 保険診療委員会 (木下担当理事)

木下担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・ オルダミンを用いた静脈奇形に対する硬化療法実施医認定のシステム作りについて審議が求められ、小児外科学会としてこの方向性で進めること、及び、本件の調整役である藤野 明浩評議員が会議に参加しつつ、適宜報告することが承認された。
- ・ 外保連委員会の役割分担が報告された。
- ・ 日本医学会より依頼された高額療養費に関するアンケート調査回答について報告された。
- ・ 令和 8 年 1 月 15 日に開催された「医療技術評価分科会」にて小児外科学会より申請していた 6 つの改正要望書の採択結果が届き、3 つが採択の見込み、3 つが採択されない結果となったことが報告された。
- ・ 令和 10 年度診療報酬改定に向けた実務委員会活動スケジュールについて報告された。
- ・ 日本外科学会保険診療委員会より、供給停止予定品目調査 (医薬品、医療材料) の提示があり、メール審議を実施の上、異議申し立てとコメントを送ったことが報告された。

(7) 教育委員会 (渡辺担当理事)

渡辺担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・ 2025 年 10 月 29 日、専門医制度委員会・教育委員会の合同会議を開催した結果、①専門医取得、②指導医更新における e-learning 活用の可能性を検討する方針となったことが報告された。
- ・ 2025 年 10 月 31 日に開催された第 19 回小児内視鏡外科手術セミナーについて報告された。
- ・ 2025 年 10 月 29 日に開催された専門医制度委員会・教育委員会において、第 41 回卒後教育セミナーについて以下の内容が決定したことが報告された。
 - 2026 年 2 月 1 日に開催予定の第 41 回日本小児外科学会卒後教育セミナーより、卒後教育セミナーの受講対象は専門医取得を目指す者とする。
 - セミナー内容は、専門医試験の問題作成資料である『標準小児外科学』に基づく内容を基本とし、アドバンス内容については、その旨を明記する。
 - また、今後の E-learning コンテンツ化の可能性を検討するため、動画の質 (音声・映像) 配慮した動画作成を講師に依頼する方針とした。
- ・ 2026 年 1 月 13 日に開催された日本医学会分科会用語委員会に出席したことが報告された。疾病分類が ICD-10 から ICD-11 への移行が 2028 年 1 月から国内運用開始予定であることが報告された

(8) 悪性腫瘍委員会 (平林担当理事)

平林担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・ データ回収事業について、悪性腫瘍登録事業地区センター幹事 (10 地区) からの残存デ

一タの回収作業が終了したことが報告された。2000年以前の紙データについては、2030年を目安に公文書保管期限30年を考慮し、業者に委託し焼却または溶解処分すること、2001年以降の電子データは、すべての地区の登録データを腫瘍別および年度別に整理して電子ファイルとして保管することが報告された。

- ・今後について残務処理が主体となり、現在まで回収したデータを、適切と考えられる委員会に移管すること、問い合わせなどの対応関係の事務の引継ぎ先を明確にすること、悪性腫瘍登録事業地区センター幹事の業務は終了として、資料などが残っていれば、担当理事に着払いで送ってもらうことが報告された。
- ・令和7年度第3回将来検討委員会で以下の意見が寄せられたことが報告された。
 - 今後、委員会として大きな業務を継続する必要性は高くないものの、他学会との調整や残務対応（紙資料の管理等）を担うため、当面は委員を置かず、担当理事のみを配置する体制とする方向性が提示された。
 - 日本では多くの施設が小児悪性腫瘍を扱うという特殊性を踏まえ、最新知見の共有や教育・啓発の観点から、本学会内に小児悪性腫瘍を扱う何らかの部門を残す意義についても意見が出された。
 - 現時点で直ちに新たな委員会機能を立ち上げるのではなく、今期～次期にかけて一定期間を設け、委員会内で今後の役割や活動のあり方を検討することとなった。
- ・現委員会で、今後のあり方について討議を開始することになったことが報告された。

(9) 学術・先進医療検討委員会（木下担当理事）

木下担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・2025年11月5日開催された第2回委員会について報告された。
- ・優秀ビデオ演題選出ルールについて審議が求められ、委員会で継続して検討していくこととなった。
- ・学会員を対象とするアンケート・疾患調査等に関する規則整理について改定案が提示され、審議が求められた。倫理審査は代表者の所属施設で行うことが確認された。文言を修正して、継続して検討することとなった。学会のツールを使ってアンケート依頼を行うことが適切か否かについては委員会で判断することとなった。
- ・若手小児外科医のための研究助成について、進捗状況と今後の課題が報告された。

(10) 倫理・医療安全管理委員会（曹担当理事）

曹担当理事より、口頭で報告され、承認された。

- ・2026年3月13日に開催される医療事故調査・支援センターの現況報告に伊崎智子委員長が出席する予定であることが報告された。
- ・第63回学術集会で開催する医療安全レクチャーに協力する予定であることが報告された。

(11) データベース委員会（田中秀明担当理事）

田中担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・「本邦における先天性横隔膜ヘルニア治療の現状とリスク因子に関する研究」（照井慶太 自治医科大学 外科学講座小児外科部門:2024年承認）の研究成果公表（学会演題応募）

前審査の依頼について、2025年11月9日～10月14日に委員会で審査を行い演題応募に関して問題なしと判断し理事会より承認を得たことが報告された。

- ・厚生労働科学研究費助成事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）宮田班：「大規模臨床データベースを活用した地域における治療の実態把握および地域医療提供体制とアウトカム評価に関する研究」の成果の一つとして、東京大学小児外科林健太郎先生より第63回日本小児外科学会学術集会への演題応募（演題名「NCD データを用いた腸回転異常症における通院時間の分布とその影響の評価」）の審査申請が提出された。本研究は班研究の承認が当時の理事会決定だった為、理事会による直接審査を依頼し承認されたことが報告された。
- ・「新生児消化管穿孔における術式選択がアウトカムに及ぼす影響」（櫻井 毅 東北大学小児外科：2022年承認）の成果について、2025年11月25日に第63回日本小児外科学会学術集会への演題応募の為の審査申請があったことが報告され、審議が求められ、承認された。
- ・2025年11月29日2025年度第2回データベース委員会（Web会議）を開催したことが報告された。
- ・2024年6月に理事会にて承認された、NCDを利用した研究（前向き・後ろ向きハイブリッド研究）「先天性胆道拡張症におけるロボット支援手術の有用性及び安全性評価」（研究代表者：名古屋大学内田広夫、研究分担者城田千代栄）のNCD登録項目追加および研究計画修正（資料3_①,②）の委員会審査を1月8日～16日にWebで実施し、問題なしと判断したことが報告され、理事会においての審議が求められ、承認された。
- ・第63回学術集会でNCD領域会議を再開させようという話が出たことを踏まえて、NCD連絡委員会と合同でプレゼンテーションを行う計画があることが報告された。

(12) 小児救急検討委員会（平林担当理事）

平林担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・2025年7月20日・21日にPALS講習会が開催され、2名が参加したことが報告された。BLS講習会は7月19日に開催したことが報告された。2026年度は、第一候補：2026年09月19日にBLS、2026年09月20～21日にPALS、第二候補：2026年07月18日にBLS。2026年07月19～20日にPALSで検討していることが報告された。
- ・日本小児外科学会HPに認定施設小児救急受け入れ状況のHPへの掲載について、調査事項として行うことが承認された。
- ・災害対策について四者協との連携を確認することになった。

(13) トランジション検討委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・「トランジション実態に関するアンケート調査」について、久留米大学病院医に関する倫理委員会に提出し、倫理審査により実施許可が得られたことが報告された。日本小児外科学会認定施設、教育関連施設を対象にトランジション実態に関するアンケート調査を実施する予定であることが報告された。
- ・移行期支援センターの準備状況を含めた成人期移行の現状についてトランジション検討

委員会委員間で情報共有を行ったことが報告された。北海道では移行期支援センターが設置された主要な施設間での連携が計画されている一方、他の県では移行期支援センター設置の協議に小児外科が加わっていなかった状況が共有された。多くの地域では移行期支援センターの設置自体が白紙の状況であり、移行期支援センターの設置に関しては関係診療科および都道府県の行政を含めた情報収集を進めて行く予定であることが報告された。

(14) ワーク・ライフ・バランス検討委員会（尾藤担当理事）

尾藤担当理事より資料に基づき報告され、承認された。

- ・第 63 回学術集会での委員会企画として、働き方改革アンケート結果の報告を行うとともに、結果をもとにパネルディスカッション式で議論して、学会として発出する提言の土台作りを行うことが報告された。開催予定日は 2026 年 6 月 12 日（金）であり、開催時刻は調整中だが、70 分間のセッションとなることが報告された。
- ・働き方改革施行後の実態調査アンケートについて、施設対象アンケートを WLB 検討委員会が、個人対象アンケートを U45WG が担当して第 63 回学術集会で結果報告を行うとともに、現在、論文作成を進めていることが報告された。
- ・小児外科医の求人広告の掲載について、ホームページ掲載用のフォーマットを作成して準備を進めていたが、総合調整委員会で専門医制度の在り方について議論され、今後、専門医制度委員会でハイボリュームセンターへのマッチングについても検討される予定のため、今後の動向が決まるまで保留となっていることが報告された。
- ・日本外科学会の持続可能な医療提供体制構築を目的とした NCD 研究については、第 5 回理事会以降進捗はないことが報告された。

(15) 規約委員会（曹担当理事）

曹担当理事より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

(16) 研究倫理委員会（曹担当理事）

曹担当理事より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

(17) NCD 連絡委員会（渡辺担当理事）

渡辺担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・2026 年手術症例の NCD-P 登録開始時期について、登録システムの更新・修正の作業に例年より時間を要し、2 月 1 日からとなる見込みであることが報告された。会員には HP やメール配信で周知しており、登録開始日が近づいたら、改めて周知する予定であることが報告された。
- ・第 63 回小児外科学会総会内に、データベース委員会と共催で「第 1 2 回 NCD 小児外科領域会議」を開催予定であり、日時や会場は、第 6 3 回学術集会事務局の城田先生と調整中であることが報告された。
- ・ロボット支援技術を NCD に登録する件について、口頭で進捗状況が報告された。

(18) ガイドライン委員会（加治担当理事）

加治担当理事より、資料に基づき報告され、承認された。

- ・小児胃軸捻転症診療ガイドラインについて、小児外科学会 HP で 10 月 3 日に詳細版を公開したこと、10 月 14 日に Minds ライブラリ公開後評価の申請を行ったことが報告された。また、ガイドライン委員会委員と胃軸捻転症診療ガイドライン作成グループの深堀優先生とで第 63 回日本小児外科学会学術集会での発表形式について審議した結果、ガイドラインの全体像を深堀優先生、診断の CQ (CQ1,2) の解説を高澤慎也先生、治療の CQ (CQ3,4) の解説を本多昌平先生、手術の CQ (CQ,5,6) の解説を工藤博典先生が筆頭演者として、計 4 題の演題登録を行ったことが報告された。
- ・腸回転異常症診療ガイドラインについて、公開後のアンケート調査結果についての和文論文を作成し、本学会誌に投稿し、現在査読中であることが報告された。
- ・先天性食道閉鎖症診療ガイドラインについて、統括委員会・作成グループで CQ の重複・統合候補・削除候補をまとめ、CQ ごとに PICO を設定し、メール審議を行っていることが報告された。2024 年 12 月 WG 内で重要臨床課題を決定、2025/11/14 ガイドライン作成委員会を on line で行い、メール審議で CQ の統廃合について検討を行っていることが報告された。
- ・「好酸球性消化管疾患ガイドライン」について、2025 年 11 月 11 日に 作成委員として、薄井佳子先生、橋詰直樹先生を推薦したことが報告された。
- ・「画像診断ガイドライン」について、2025 年 10 月 15 日に日本医学放射線学会より、「画像診断ガイドライン」外部評価委員推薦依頼があり、加治建理事と住田互委員長を推薦したことが報告された。委員会内で本ガイドラインの BQ/FQ を回覧し、評価を行ったことが報告された。
- ・学会 HP 掲載診療ガイドラインの次期更新について 2026 年 1-3 月で作業を行い、2026 年 5 月頃にアップロードする予定であることが報告された。

(19) 利益相反委員会（尾藤担当理事）

尾藤担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・COI 申告書デジタル化の進捗について、2026 年 3 月の日本小児外科学会における COI 申告提出から、デジタル方式で運用する方針であることが報告された。

(20) 医薬品・医療機器検討委員会（渡辺担当理事）

渡辺担当理事より、資料に基づき報告された。

- ・大塚製薬工場（株）ならびに輸液製剤協議会より「リハビックスーK1 号輸液」、「リハビックスーK2 号輸液」、「プレアミンーP 注射液」に関して不採算品再算定の申請にあたり、いずれも小児診療に必須輸液製剤との結論に達し学会より意見書を提出したことが報告された。
- ・沢井製薬株式会社より「セフトリアキソン Na 静注用 0.5g/1g 「サワイ」」供給停止に関して、メール審議を行い代替品で対応可能と判断した。「供給停止に関する了承文書」を学会より提出したことが報告された。
- ・AMED レギュラトリーサイエンス研究中村班による小児医薬品開発推進会議・関連分

科会意見交換会に和田顧問とともに Web 出席し、オメガベンの医師主導治験ならびに未承認薬適応外薬検討会議に関し現状報告を行ったことが報告された。

- ・日本小児科学会薬事委員会より供給停止予定医薬品・医療機器品目審議の依頼があり、メール審議を行いいずれも代替品で対応可能と判断し日本小児科学会薬事委員会へその旨返答したことが報告された。

(21) ロボット支援手術検討委員会（家入理事長）

家入理事長より、資料に基づき報告された。

- ・小児外科領域ロボット支援手術 Cadaver Training 計画書(草案)について報告された。

(22) NCD-P Audit Ad-hoc 委員会（菱木副理事長）

菱木副理事長より、口頭で進捗について報告された。

(23) こども家庭庁連絡委員会（Ad-hoc）（平林担当理事）

平林担当理事より、今回特に報告事項がない旨が述べられた。

(24) 総合調整委員会（菱木副理事長）

菱木副理事長より、資料に基づき、報告された。

- ・U45WG の規約案について報告された。代表（代表幹事）等の交代時期については、社員総会を起点とする学会の委員任期に合わせるべきとの指摘がなされた。活動の性格については、「業務」ではなく自由度のある「活動」とする意図は理解しつつも、学会名義での調査研究等が個人の業績目的に偏らないよう、学会の発展に資する目的を明確化し、事前確認・審議を含む一定のガバナンスの枠組みを規約文言に反映させる必要性が再度確認された。
- ・理事の小児病院・こども病院枠の設置について、理事会ではなく総合調整委員会にアドホックに参加してもらい、意見を伺う形が望ましいとの意見が寄せられたことが報告された。大学病院でもこども病院でもない“ハイボリュームセンター”を含む現場の多様な立場と、学会（理事会）との相互の情報共有・意見聴取の場を設けることが妥当とされ、継続審議となったことが報告された。
- ・DEI 推進のための部門設置について、専門部門を設けることが妥当との考えが共有され、次回委員改選期（約 2 年後）を目途に正式な委員会として発足させることとし、準備段階としてまずアドホックなワーキンググループを設置して検討を進め、その結果を踏まえて委員会化を理事会に諮る方針となったことが報告された。これを受けて、DEI 推進のためのアドホック WG を WLB 検討委員会の下に設置することが承認された。
- ・国際・広報委員会の分割化に関してはすでに理事会にて承認済みである旨が共有されたことが報告された。
- ・NCD-Audit ad-hoc 委員会の委員会化について、今後の活動内容や学会内での位置づけ、また、来春からリモートオーディットの本格運用が開始され、患者情報を含む書面提出に伴い倫理審査や研究計画書の整備が必要となることから、学会としての明確な所管を持つ体制が求められるため、現行の ad-hoc 体制から委員会へ移行する方針とされた。また、

委員会数の増加に伴う理事会での報告負担については、毎回すべての委員会から詳細報告を求めるのではなく、資料確認を基本とするなど、報告の簡素化・省力化を併せて検討することとしたことが報告された。

- ・悪性腫瘍委員会について、日本では多くの施設が小児悪性腫瘍を扱うという特殊性を踏まえ、最新知見の共有や教育・啓発の観点から、本学会内に小児悪性腫瘍を扱う何らかの部門を残す意義についても意見が出され、現時点で直ちに新たな委員会機能を立ち上げるのではなく、今期～次期にかけて一定期間を設け、委員会内で今後の役割や活動のあり方を検討することとなったことが報告された。
- ・海外での研修システム、海外からの研修の受け入れについて、継続審議とされたことが報告された。
- ・2025年12月24日に開催された専門医制度改革 今後の制度に関する合同会議の進捗報告と意見交換について報告された。

(25) 日本外科学会理事会（田尻監事）

田尻監事離席のため、尾藤理事より、口頭で報告された。

- ・小中学生を対象とした市民公開講座を関西で開催する予定であることが報告された。
- ・医学部6年生を学会に招待する予定であることが報告された。
- ・2027年東京でのプログラム委員会に武富理事長が参加予定なので、サージカルウィーク構想が進むのではないかとの見解が示された。

(26) 四者協関連（家入理事長）

家入理事長より口頭で、インフォームドコンセントの運用が変わっていく動きがあることが報告された。

8) ブロビアックカテーテル_ヒックマンカテーテルの自主回収並びに欠品に関するご報告 (家入理事長)

家入理事長より、学会宛に株式会社メディコンから「ブロビアックカテーテルキット」および「ヒックマンカテーテルキット」の自主回収・納期遅延に関する連絡があったことが報告された。

9) インボイス制度および電帳法施行に伴う追加費用に関するお願い（家入理事長）

家入理事長より、学会支援機構から「インボイス制度」および「電子帳簿保存法」施行に伴う追加費用に関するお願いがあったことが報告され、承認された。

1. 報告事項

1) 理事長報告（家入理事長）

- (1) 2025年12月22日に開催されたNCD臨時社員総会議事録・理事会議事録が提示され、報告された。
- (2) 日本胸部外科学会からの通信文「理事長退任・就任の挨拶」を受領した。

- (3) 日本の医療の未来を考える会からの寄贈本「集中 11月号」を受領した。
- (4) 医療事故調査・支援センターからの寄贈本「医療事故の再発防止に向けた提言第 21号」を受領した。
- (5) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.424」を受領した。
- (6) 難病のこども支援全国ネットワークからの寄贈本「がんばれ！ Vol.212」を受領した。
- (7) 日本小児科医会からの寄贈本「令和 6 年度#8000 情報収集分析事業報告書」を受領した。
- (8) 日本の医療の未来を考える会からの寄贈本「集中 12月号」を受領した。
- (9) 医療事故調査・支援センターからの寄贈本「医療事故の再発防止に向けた警鐘レポート No.4」を受領した。
- (10) 厚生労働省からの寄贈本「医薬品・医療機器等安全性情報 No.425」を受領した。
- (11) 日本の医療の未来を考える会からの寄贈本「集中 1月号」を受領した。

2) 次回定例理事会日程の確認（家入理事長）

次回定例理事会は令和 8 年 3 月 10 日（火） 11:00～16:00 大阪大学東京オフィスで開催する予定であることが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____